

大山山麓地域の日本遺産

(大山町、伯耆町、江府町、米子市)



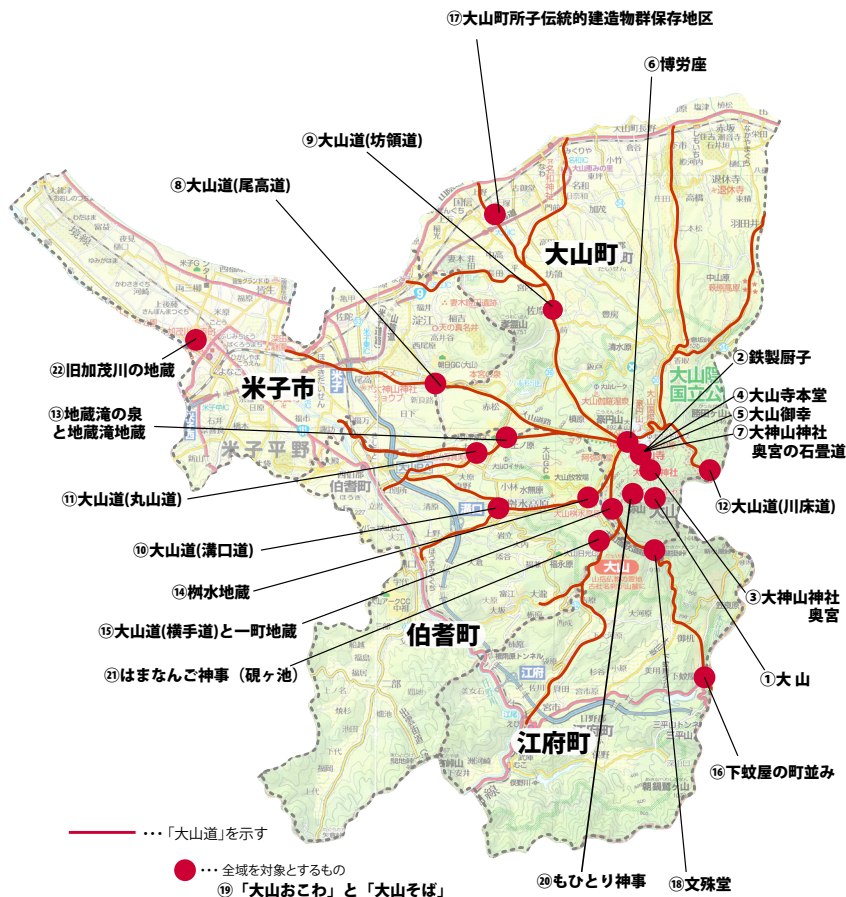
「日本遺産」を構成する文化財群

『出雲国風土記』の国引き神話に登場する、文献に見える日本最古の「神坐す山」大山は、古くから神聖な山として崇められ、日本四名山にも数えられてきた地域のランドマークであり、山麓に暮らす人々の生活と密接に結びついたシンボリックな存在でもあります。

そんな大山と大山から生まれる水、大山および大山寺を核に発展した大山信仰をストーリーの中核に据え、信仰から生まれた日本最大の大山牛馬市を縦軸に、大山寺・大山牛馬市へと人々が牛馬が往来した大山道でつながる大山町、伯耆町、江府町、米子市の4市町に伝わる建造物や町並み、食文化、民俗・風習などの文化財群を結んだものが「日本遺産」のストーリーです。

先月号では、こうした文化財群のうち米子市に関連するものとして、大山道(尾高道)、旧加茂川の地蔵、大山おこわと大山そばの3つをご紹介しましたが、圏域内にはそのほかに、国指定重要文化財などを含む多くの構成文化財があります。

構成文化財の位置図



◆「大山道」と道沿いの人々の暮らし

中世以来、大山を西国諸国に広く及ぶ大山信仰圏と牛馬流通圏の中心に位置づけ、その往来を支えたのが大山寺から放射状にのびる「大山道」(坊領道、尾高道、溝口道、丸山道、横手道、川床道)です。大山道沿いの村々には博労宿や参詣者の宿も相次いででき、大いに繁盛しました。

横手道沿いで博労宿が軒を連ねた下蚊屋や御机の街道筋には往時の面影が、坊領道沿いの集落では各家で仔牛生産をした家屋の配置や牛繋ぎ石などが今も残っています。

また、横手道には山陽筋からの途中で参詣が困難となった人が大山を望んで拝むための鳥居や、女人禁制の時代に女性が拝礼する場所だった「文殊堂」が、川床道には苔むした石畳道が、各道の道端には地蔵菩薩にちなむ一町地蔵などが残っています。

◆裾野にまで広がる「大山信仰」

「大山信仰」に由来する水にゆかりある行事としては、山中の池から水を汲み清めとする「もひとり神事」や「はまなんご神事」などがあり、今も続いています。また、五穀豊穡を祈る風習として、田植え前に大神山神社奥宮で豊作を祈る「山入れ」の行事や、伯耆やその周辺諸国の田植唄で詠われる「大山歌」などもあります。

このように、水の恵みに延命を求める地蔵信仰に由来する「大山信仰」と「牛馬信仰」は、牛馬市の隆盛も手伝って、西日本に大きな信仰圏を形成しました。それは、あたかも大山からの天恵の水が伏流水となったがごとく、長い歳月を経て人々の生活文化の中に沁みわたり、静かに根付いたものです。そして、裾野に暮らす人々は「大山さんのおかげ」と日々感謝しつつ大山を仰ぎ見続けているのです。

米子市グリーン購入適合紙を使用しています

米子市の人口と世帯数 平成28年6月末日現在(住民基本台帳による。) ※()内は前月比

人口 149,497人(+17人) 男性 71,043人(+24人) 女性 78,454人(-7人) 世帯数 65,928世帯(+42世帯)

編集発行/米子市総務部秘書広報課/〒683-8686 米子市加茂町1-1/☎23-5372

Eメール kouhou@city.yonago.lg.jp ■毎月1日発行 ■印刷/有限会社米子プリント社

米子市役所(代表☎22-7111)